

長野県木曾青峰高等学校 令和元年度第2回学校評議員会 記録

日時 令和2年2月26日(水) 午後3時00分から午後4時30分

場所 木曾青峰高等学校同窓会館

出席者 学校評議員 同窓会長・同窓副会長・PTA会長
木曾養護学校長・木曾町区長会長
学校職員 校長・全日制教頭・定時制教頭・全日制教務主任・定時制教務主任
進路指導主事・生徒指導主事・1学年主任・2学年主任・3学年主任
理数科主任・森林環境科主任・インテリア科主任

1 開会

2 学校長挨拶

3 学校からの報告

4 学校評議員からの質問・意見・要望等

(評議員) 木曾出身の教員または教育関係の職を目指す生徒を増やしてほしい。

■生徒には選択支の一つとして考えてもらえるように話をしていきたい。中学校との連携で、希望者には教育支援ボランティアを行っている。今後は、小学校との連携も考えていきたい。

(評議員) 木曾郡内企業説明会の企業選定はどのように行っているのか。参加したい企業がたくさんいるのでHPなどを活用して、周知してもらいたい。

■学校側での選定は行っていない。ハローワークと地域振興局が選定している。来年度の企業説明会では、HPなどを活用して周知したい。

(評議員) SNSについて学校はどのような対応をとっているのか。想定できることはあらかじめ、ガイドラインとして示しておくとのよいのではないか。今後は、保護者との連携が必要なのではないか。

■学校内でもSNSに関する重大なトラブルの防止のため啓発活動は行っているが、近年は、指導の想定を超える事案が起こっている。従来の指導や想定にとらわれることなく、臨機応変に対応していきたい。保護者の方へは、実際の事例なども含めてSNSに関する情報を発信していきたい。また、スマートフォンなどの使用方法についても話し合ってもらい呼びかけていきたい。

(評議員) 野球部や演劇部のように生徒の日々の努力が実を結んでいるようで、嬉しく思う。これは後輩の励みにつながっている。

(評議員) 未来の学校について、実現できるように話し合いを進めてもらいたい。また、学校を知らない保護者が多くいることが現状である。保護者と生徒と一緒に活動できる場を作ってもらえると保護者も学校を知る機会につながる。

■もっと学校は地域や保護者に開かなければならないと感じている。HPなどを通して、情報を発信していきたい。生徒と保護者の活動の場については今後、検討していきたい。

(評議員) 訪問カウンセリングはどのような効果があったのか教えてほしい。

■不登校生徒に訪問カウンセリングを行った。話を聴く中で、生徒が抱える不安を発見して次の医療機関へつなげることができ、登校できるようになった。訪問カウンセリングが直接結果に結びついたわけではないが、医療機関へつなげるきっかけを作ったと言える。

5 その他

6 閉会